## 加藤敬弘教授定年退職記念号発刊に寄せて

## 高崎経済大学経済学会会長 北 條 勇 作

加藤敬弘先生は、昭和15年広島県でお生まれになり、平成18年3月31日をもちまして高崎経済大学経済学部を定年になられ(65歳)、ご退職されます。このことを記念して、本学経済学会では退職記念号(『高崎経済大学論集』第48巻第3号)を発刊致します。先生は、昭和46年3月青山学院大学大学院経済学研究科博士課程を終えられ、高崎経済大学経済学部には42年5月赴任・奉職され、それ以来ちょうど39年の在職期間になります。この長きに亘り、本学ならびに本学会の発展のために寄与され多大なるご尽力・ご貢献をなされましたこと、誠に有難うございます。

先生の専攻分野は、経済変動論、経済政策、環境経済学などであり、このような分野の研究において独自の研究業績を残されております。その内容は、現代経済理論と経済的資源としての環境に関する諸問題であります。より具体的に示しますと、先生は、経済理論体系の中で経済活動に不可欠な資源としての環境をどのように位置づけるかについて研究し、その業績などをまとめられており、さらに、環境問題が及ぼす経済効果について詳細な分析を進めております。また、環境資源と関連が深い観光資源について、経済学の立場から分析を試みております。飽くことなく研究して来られた先生の未だ衰えることのないその意欲には驚嘆するばかりであり、後に続くわれわれのお手本になっていますし、また道標ともなってきました。私は、学問・研究に対する分野・視点が先生とはある程度相違していましたので、学問的なつながりは残念ながら深いものではありませんでしたが、研究をゆるがせにしない先生の態度には厳しいものがあり、敬服することが度々ありました。なお、著書・論文など多数執筆されていますが、ここでは主要研究業績の一端として単著1冊のみを紹介しておきます。すなわち、労作『環境と経済学』八朔社、平成11年3月、です。

学会活動も活発で、日本経済学会、金融学会、日本経済政策学会、日本ホスピタリティ・マネジメント学会など多数の学会に所属され、幅広く活躍されています。

教育活動にも熱心で先生独自の基本方針があります。先生は、社会に出てからの活動に役立つ指導をされ、とくに演習では、発表とレポートの提出を重視

して、学習・研究効果が向上するように努力されてきたことは、特筆に値します。

先生は、穏和で包容力があるゆえに醸成された心温まる眼差しと、本質を捉えた研究で鍛錬された眼光を持ち、両者相俟って接する人達に魅力となっており、そういった雰囲気が内面からにじみ出ていると言えましょう。学問に対しても真摯な態度で今後も、前述したような野心的な研究テーマを中心にして精力的に研究活動を続けられることと思いますが、どうかご健康には十分ご留意下さい。

われわれのために長い間ご指導・ご鞭撻下さいまして本当に有難うございました。ここに改めて先生がますます御健勝であられますことを祈念致しますとともに、また勝手ではございますが、今後もわれわれの大きな指針となっていただくことを念願する次第であります。先生が幸多からんことを心から祈ります。